

## ② 涙と笑顔がたっぷりの時間 全国表彰式

- はがきキャンペーン「大賞」作品
- 作文コンクール「内閣総理大臣賞」作品
- 受賞者名簿

## ⑧ すてきな人に出会えた

スーパーボランティア 尾島春夫 (大分県日出町)  
あいさつ名人 長村由香 (セコムジャスティック㈱ 東京本部)

## ⑩ 幼児向け

「おはなしメリーゴーランド」試作品完成

## ⑫ 高校生からのメッセージ

## ⑬ コラム「これってどうなの?」／のんちゃんのおすすめ紹介

## ⑭ Information & HIROBA



表紙写真

- 1: 樹齢225年の松の盆栽 (東京都・八芳園)
- 2: 源頼朝が行った猪狩りを再現した祭礼「富士の巻狩り」 (三重県四日市市 / 撮影: 三重県本部 北出正之)
- 3: 全国表彰式会場を風船で飾り付け
- 4: 雪をかぶった南天 (山形県新庄市)
- 5: スーパーボランティア尾島春夫さんへ感謝状贈呈
- 6: はとバスツアーでのランチ (東京都・八芳園)
- 7: 稲佐山からの夜景 (長崎県)

「小さな親切」誌は、季刊発行  
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2019年1月25日発行 通巻513号

編集・発行人 鈴木恒夫  
発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部  
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4  
TEL. 03-3263-2866 FAX. 03-3263-3838  
<http://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社  
© 無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。

デザイン・DTP 有限会社リトルフット  
イラスト P12: 清水 稔 / P13: 安彦麻理絵



# 蘇生!! ニッポニア・ニッポン

代表 鈴木恒夫

**人**間はトシをとると行動範囲が狭くなるから、どうしても懐旧談が多くなる。喜寿(77才)を過ぎた私は、その最たるもの。なにとぞご理解、ご容赦をお願いいたします。

今回は、国の特別天然記念物のひとつで、国際保護鳥でもあるトキ(朱鷺、鴛とも書く)に関してのこと。美しい鳥だが、とりわけ大きく羽根を広げて空を飛ぶ姿を下から見ると、桃色というか淡紅色というか、言葉ではあらわしがたい羽根裏の“トキ色”が目にしみる。

その姿を思い浮かべつつ……。

私が人一倍野鳥を愛するのは、幼い頃の思い出があるからだ。1964年10月に東海道新幹線が開業し、私の生まれ育った横浜市北部の田んぼと畑だけだったところに新横浜駅ができたことが、この地域の猛烈な都市開発を加速、農山村の姿が一変した。

この地域にはかつてスズメ、ホオジロ、ヒバリ、ウグイスはもちろん、メジロ、コジュケイ、トビ、モズ、ムクドリ、シジュウカラ、などなど、ほんとうに様々な野鳥が生息。農業用水池の水面を飛ぶカワセミの姿、ときおり裏山から聞こえるフクロウの鳴き声も目や耳に残っている。しかし、それがだんだんと……。

**そ**んな私が、1963年春に毎日新聞新潟支局に新人記者として赴任して、大きな関心を持つ

たのが、佐渡島に棲息していたトキだった。しかし、この地にまで時代の波が押し寄せ、農薬や化学肥料の散布によって、田んぼの中にいたドジョウやカエル、タニシなどが激減し、それらを食糧にしていたトキもまた激減していく。そして、ついに2003年、国内産のトキは絶滅してしまった。

心ある人々は、その生存を願って様々な活動を展開。その中の一人に、現地佐渡の相川で健筆をふるっていた先輩記者がおられた。実に味わい深い文章を書かれた地方記者で、自らの故郷で、トキの絶滅の危機に警告を發し続けた磯部寅雄さんという方は、いまだに尊敬の念を禁じえない。

**い**ったん絶滅したトキを蘇らせたいという願いを共有した磯部さんのような人たちが、心と知恵をつなぎ合わせ、環境庁(のちに省)や全国の支援者の力を借りて、やがて“奇跡”を佐渡にもたらして下さる。中国から供与してもらった5羽から人工繁殖を繰り返して、2008年に放鳥を開始。昨年までの10年間で、なんと約350羽が島全体に生息するまでになったのだ。

ご承知かもしれませんが、トキの学名はニッポニア・ニッポン。私たち「小さな親切」運動が掲げる目標は、「日本の美風の“蘇生、と”新生」。トキを蘇らせて下さった皆様、ほんとうに、ほんとうに、ありがとうございます。